

# 政策提言

令和3年2月26日

箕輪町議会 福祉文教常任委員会

## 1 経過

福祉文教常任委員会では、福祉、子育て、教育の中のいくつかの課題について約1年間調査研究してきました。

検討の過程では、役場の関係各課からの聞き取り、現地調査を行なうとともに、中部大学の武者一弘教授からの助言も頂きながら課題を抽出し、討議検討してきました。新型コロナのまん延により地域の皆さんとの意見交換ができなかったことが残念ですが、その結果を政策提言として、町、町教育委員会のこれからの政策に取り入れて頂きたいとまとめました。

## 2 提言する政策課題

### 政策提言Ⅰ 子育てと教育力で地方創生へ

- 子どもの貧困
- 不登校・ひきこもり
- ICT教育
- 食育

### 政策提言Ⅱ 子供から高齢者まで暮らしやすい共生社会を

- 高齢者の地域包括ケア（介護と医療の連携）
- 障がい児の子育て支援（障害児の発達支援事業所「若草園」）
- 障がい者の就労支援（「農福連携」）

## 3 政策提言の背景

- 子どもの貧困

所得格差の広がりのなかで、急速に経済状況が悪化しているため、子どもの貧困も深刻化している惧れがある

とりわけ、コロナ禍のなかでは喫緊の重要課題となってきた

## ○不登校・ひきこもり

不登校について長野県は全国トップクラスの水準であり、当町でも課題となっている

## ○ICT教育

ICT教育について、当町の取り組みの検証と、デジタルデバインドへの対応が求められている

## ○食育

所得格差の広がりや社会状況の変化のなかで、子どもたちの食生活や健康維持について支援していく必要がある

## ○介護と医療の連携について

高齢者が、医療措置や介護が必要になっても住み慣れた地域で最後まで暮らし続けられることが求められている中で、介護の在宅ケア、医療の在宅ケア、地域の支援が必要であり、それを支える医療と介護の連携した体制の構築が必要になってきている。そんな中、令和3年3月からサービスが開始される「看護小規模多機能型居宅介護」サービスを提供する事業所ができるのでそれを活用した介護と医療の在宅ケアの連携が求められている。

## ○発達支援事業所「若草園」について

若草園は昭和52年、母子通園訓練施設として開園した。

その後、平成20年に現在地に移転、平成29年児童福祉法に基づく子ども発達支援事業所に移行した。日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等を行っており、痰の吸引や経管栄養といった医療的ケアが必要な子どもも出てきている。

厚生労働省によると、在宅の医療ケア児（0～19歳）は2018年時点で推計2万人。新生児医療の発達で救われる命が増え、10年で1.9倍になった。調査ではケアを依頼できる人が自分以外にいないとの回答が37.6%に上り、家族の負担は大きい。当町でもこのような児童が増えることが想定される。

若草園の現状は施設として十分なスペースがないこと、医療的ケアの体制が十分でないことがあげられる。

## ○「農福連携」について

高齢化に伴い人材不足に直面する農業分野で、障がい者を働き手として受け入れる「農福連携」が注目されている。

障がいを持った人が農業生産に従事する「農福連携」は、高齢化や後継者不足に悩む農家にとっては担い手の確保ができ、障がい者にとっては新たな就労の場の開拓になるなど、双方の課題を解決する取り組みである。

しかし、農業経験のない障がい者がいきなり農作業を行うことや、障がい者の特性がよくわからない農家が障がい者を雇用することには高いハードルがある。障がい者を活用したい農家や農業法人が、社会福祉法人等に農作業を委託し、受託した社会福祉法人等の障がい者が、「施設外就労」という形で援農することでハードルを乗り越えている事例が増えつつある。

そして、そのような取り組みを支援すべく、行政部局やＪＡが間に入り、両者をコーディネートしたり、障がい者の就労に関心のある農家、農業法人、社会福祉法人等が情報交換する場を設けたりする支援が各地で行われ始めている。

## 4 政策提言

### 政策提言Ⅰ 子育てと教育力で地方創生へ

#### (1) 提言の方向性

小学校区を基盤としたコミュニティ拠点の構築



課題の共有と協働による解決



支え合いの地域づくり

#### (2) 政策提言の概要

少子・高齢化が進展するなかで、区単位のコミュニティが弱体化してきている。そこで、**小学校区単位の地域コミュニティ拠点を構築**するなかで、新たな子育て・教育施策の展開を図る。

具体的には、「**地域コーディネーター**」(仮称)を配置して**地域拠点をつくり**、子育てや教育における相談事業、地域との連携を図りながら当該エリアの課題に、住民本位で取り組む。

当面は、複数のモデル地区を設置し、実践を積み重ねるなかで政策実現の研究を深めていく。

人口減少社会におけるコミュニティ活性化の視点をもとに、4つの政策課題(子どもの貧困、不登校・ひきこもり、ICT教育、食育)について、子育て・教育施策を充実する方途を探る

#### ☆地域コーディネーターとは

身近な課題に取り組むため、小学校区単位に地域コーディネーターを配置する。地域コーディネーターは、相談事業、小学校、区、地区社協、地区公民館、ボランティア、地区営農組合など地域との連携による課題解決を行なう。会計年度職員、地域おこし協力隊員、町社協職員などを充てることも考えられる。

現在、町社会福祉協議会の取組みの中で活動している福祉関係の相談、アドバイス、各種支援を行なっている「地域福祉コーディネーター」とも連携していく。

取り組む内容は

- ①子どもの貧困・・・子どもカフェ など
- ②不登校・ひきこもり・・・ミニ中間教室 など
- ③ICT教育・・・サテライト機能 など
- ④食育・・・地産地消支援 など

### (3) 提言の内容

#### ①子どもの貧困

- 「子どもカフェ」(子どもの居場所づくり)に取り組み、学習支援・食事提供・悩み相談・学用品等のリユースなど複数の機能を提供する。

町社協の「フードバンクみのわ事業」に協力し、食料の寄付や提供の地域拠点としての機能を持つ

- 子どもの貧困施策の構築へ
  - ・地域コーディネーター(拠点)の設置
  - ・地域ネットワークの整備・活用
  - ・地域子どもの未来交付金(内閣府)の導入
  - ・箕輪町子ども・子育て支援事業計画の見直し

#### ②不登校・ひきこもり

- 児童・生徒には、学校教育課とも連携しつつ、身近な地域のなかでの中間教室的な機能を提供する

- ひきこもっている可能性のある住民(児童生徒)には、健康推進課、民生委員や町社協の地域福祉コーディネーター等とも連絡をとりつつ、地域コーディネーターからも支援する

#### ③ICT教育

- 地区公民館や空き家を活用して、サテライト機能の充実を図り、地域における情報環境整備の支援拠点とする

○不登校、引きこもりの児童、生徒にもICT環境の整備による支援の実施

○大学での教員志望者などのボランティアを呼び込む受け皿をつくる

#### ④食育

○「農・食・健康」のリンケージ強化の一環を地域コーディネーターも担う。その際、学校の栄養士・地区営農組合・食生活改善委員などと幅広く連携し、地産地消を柱とする体験的な食育を推進する

○信州型コミュニティスクールの活動を活性化し、農や食に係る分野の地域連携や支援にも取り組む

#### (4) まとめ(期待される効果など)

○コミュニティ拠点の構築により、住民の主体性を大切にしながら、課題の解決にあたる仕組みづくりの基盤ができる・・・実態把握の精度を上げ、きめ細かな対応が可能に

○政策立案の精度や実現性などをたかめるため、住民参加の視点から、関係者等と意見交換の機会を持つ・・・子ども、若者、保護者の声を聴くことの大切さ

## 政策提言Ⅱ 子供から高齢者まで暮らしやすい共生社会を

### (1) 政策提言の内容

#### ①介護と医療の連携について

介護と医療の在宅ケアの連携の一つとして、「看護小規模多機能型居宅介護」サービス事業所ができるのでそれらを活用した地域ケアの充実を進める必要がある。

○利用者が使いやすい体制の整備を進める。

○生活困難者に対する負担軽減など使いやすいサービスとなる必要がある。

- ・介護保健が利用できない部分の独自の負担軽減
- ・社会福祉法人等以外も利用者負担軽減の対象に加える
- ・宿泊代の補助

○在宅での介護に当たって介護者に対する支援も併せて進める。

#### ②発達支援事業所「若草園」について

○発達支援事業所「若草園」の充実のため、十分なスペースが取れるよう施設の拡張（保育園に隣接していることが保護者の強い要望）を行う

○医療的ケアを含めた体制の整備が必要である。

### ③「農福連携」について

○農福連携事業は未知の分野であり、地域での福祉施設の認知度は低く、農業側と福祉側がお互いのことをよく知らないので、情報不足であり、周知・研修が必要である。

○町内の農業者と障がい者就労施設等のニーズを把握し、それらをマッチングする仕組みの構築とアドバイザーやコーディネーター等人材の育成に取り組む必要がある。

○障がい者の適性に応じた可能な分野（加工や販売等）を含め、先進事例を参考にするなど、障がい者が身近に体験や実習ができる農業・園芸などの環境整備を進める必要がある。

第4期箕輪町総合福祉計画の執行の中で、福祉施策に生かされるよう提言します。

SDGsの目標達成へ・・・誰一人取り残さない・・・

